

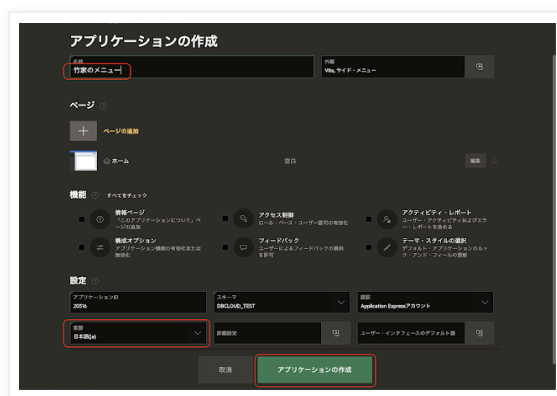
日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2020年6月4日 木曜日

Oracle APEXアプリケーションのグローバル化(2) - 初期アプリケーションの作成

Oracle APEXアプリケーションのグローバル化を説明するにあたり、まず最初に元となる日本語のアプリケーションを作成します。Oracle APEXのアプリケーション・ビルダーから**作成**を選んで、**新規アプリケーション**の作成を実行します。アプリケーション・ウィザードへの設定項目として、**名前**（なんでも良いですが、ここでは**竹家のメニュー**としています）、言語（これは**日本語(ja)**を選択します)を指定し、**アプリケーションの実行**を行います。



これでホームページだけの空のアプリケーションが作成されます。

次に、必須の作業ではないのですが、テストをしやすくするため、カスタムの認証スキームを設定します。作成したアプリケーションの**共有コンポーネント**に含まれる**認証スキーム**を開きます。

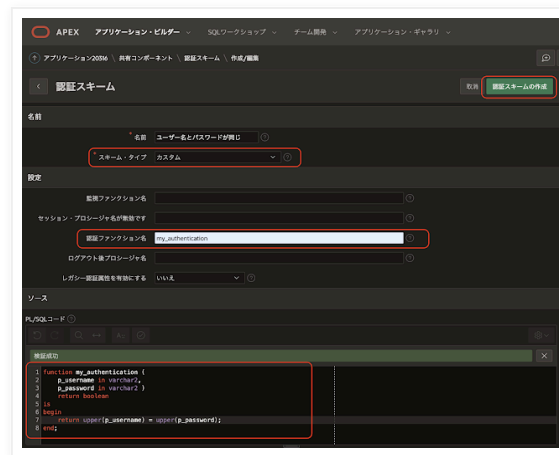


認証スキームの一覧から**作成**をクリックし、以下の認証スキームを新たに定義します。ユーザー名とパスワードが一致していれば、アプリケーションの利用を許可します。**名前**は任意ですが、ここでは**ユーザー名とパスワードが同じ**、としています。**スキーム・タイプ**は**カスタム**を選びます。認

認証ファンクション名としてmy_authentication、ソースにmy_authenticationのコードを記述します。

```
function my_authentication (
    p_username in varchar2,
    p_password in varchar2 )
return boolean
is
begin
    return upper(p_username) = upper(p_password);
end;
```

すべて設定したのち、**認証スキームの作成**を実行します。新規に認証スキームが作成されると、その認証スキームが以降のアプリケーションの認証で使われるようにアクティブ化されます。



認証スキームを新規に作成したのち、アプリケーションを実行します。サインインをするために**ユーザー名とパスワード**が聞かれますので、ユーザー名とパスワードに同じ値を入力して、アプリケーションに**サインイン**します。この例では**demo/demo**と入力しています。



サインインすると空のホームページが表示されます。



これからは、このアプリケーションに機能を追加していきます。

最初にメニューを保持する表を定義します。

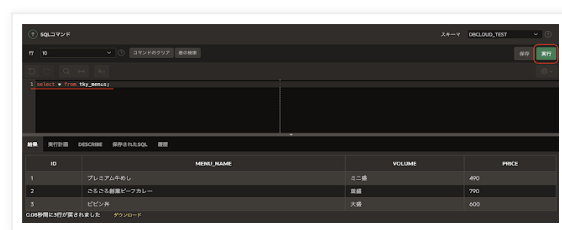
```
create table TKY_MENUUS
(
  ID            number primary key,
  MENU_NAME    varchar2(80) not null,
  VOLUME       varchar2(16) not null,
  PRICE        number      not null
);
```

メニューそれぞれで、名前(MENU_NAME)、サイズまたは量(VOLUME)、そして値段(PRICE)の情報を持ちます。以下のスクリプトを実行して、データを投入します。**SQLワークショップ**に含まれる**SQLコマンド**の画面にそのまま貼り付けて実行できるよう、begin/endで囲っています。

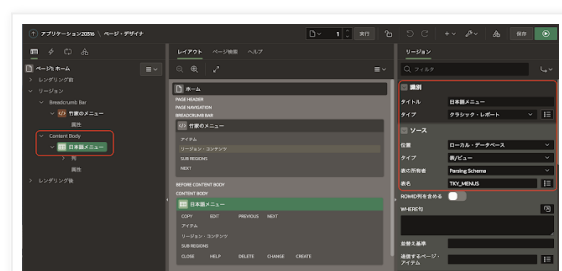
```
begin
insert into tky_menus(id, menu_name, volume, price) values(1,'プレミアム牛めし','ミニ盛',490);
insert into tky_menus(id, menu_name, volume, price) values(2,'ごろごろ創業ビーフカレー','並盛',790);
insert into tky_menus(id, menu_name, volume, price) values(3,'ビビン丼','大盛',600);
commit;
end;
```

データが投入されているかどうか、SELECT文を実行して確認します。

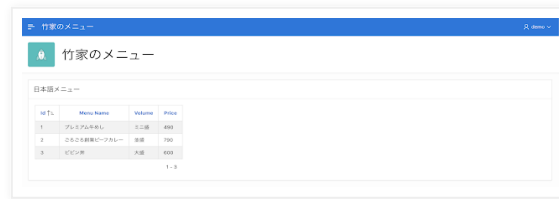
```
select * from tky_menus;
```



以上でデータの準備ができたので、アプリケーションにレポートを追加します。ページ・デザイナーでページ番号1、ホームのページを開きます。開いたページに**クラシック・レポート**のリージョンを追加します。**タイトル**は日本語メニュー、ソースの表名に先ほど作成した表TKY_MENUUSを指定します。

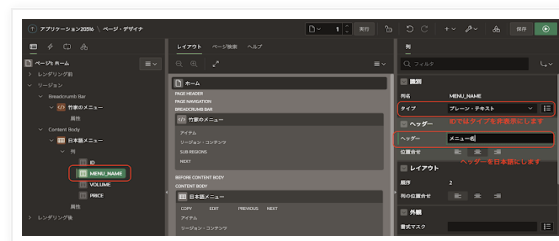


追加したレポートを確認するために、アプリケーションを実行します。

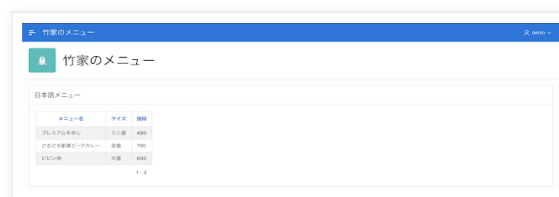


Menu Name	Volume	Price
アラスカアサガハ	200g	800
さくらを彩る桜餅	100g	700
ピザ	100g	600

表の列名からヘッダーが決まっているため、英語になっています。日本語のアプリケーションらしくするため、主キーのIDを**非表示列**に変更し、列のヘッダーである**Menu Name**を**メニュー名**、**Volume**を**サイズ**、**Price**を**値段**に変更します。



これらの変更を行った結果が以下です。単純ですが、日本語のみに対応しているOracle APEXのアプリケーションはこの例のように作られているでしょう。通常、特に言語については意識せずに、直接アプリケーションに日本語を埋め込んでいると思います。



メニュー名	サイズ	値段
アラスカアサガハ	200g	800
さくらを彩る桜餅	100g	700
ピザ	100g	600

このように、ひとつの言語だけを考えて作られているアプリケーションを、これから多言語に対応させていきます。

続く

Yuji N. 時刻: 11:24

共有



ホーム



ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)